

1 次の□内にあてはまる文字として最も適切なものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 疑心暗□
解答番号は

② □怒哀楽
解答番号は

③ 臨□応変
解答番号は

④ 大□晚成
解答番号は

⑤ 一□当千
解答番号は

ア 機 イ 騎 ウ 鬼 エ 器 オ 喜

2 次の作品の作者を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① おくのほそ道
解答番号は

② 源氏物語
解答番号は

③ 暗夜行路

解答番号は

8

④ 坊ちゃん

解答番号は

9

⑤ バッテリー

解答番号は

10

ア 志賀直哉

イ あさのあつこ

ウ 松尾芭蕉

エ 紫式部

オ 夏目漱石

③ 次の文法に関する問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の文章から文節の区切り方として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

① 生意気なことを言う妹だが、私は妹のことが大好きだ。

解答番号は

11

ア 生意気な／ことを／言う／妹／だが、／私は／妹の／ことが／大好き／だ。

イ 生意気／な／こと／を／言う／妹／だが、／私／は／妹／の／こと／が／大好き／だ。

ウ 生意気なことを／言う／妹だが、／私は／妹のことが／大好きだ。

エ 生意気な／ことを／言う／妹だが、／私は／妹の／ことが／大好きだ。

② 小説を読むことが、日課になっている。

解答番号は

12

。

ア 小説を／読む／ことが、／日課に／なっ／て／い／る。

イ 小説を／読むことが、／日課に／なっている。

ウ 小説を／読む／ことが、／日課に／なっ／て／い／る。

エ 小説を／読むこと／が、／日課に／なっ／て／い／る。

問二次の傍線部の接続語の種類を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 彼女は親切な人だ。だからみんなに好かれる。

解答番号は

13

。

② こんなことは言いたくない。しかし君のことを思っているから言わなければならない。

解答番号は

14

。

ア 順接 イ 逆接 ウ 転換 エ 説明・補足

問三次の動詞の活用の種類を後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は

15

。

安心する

ア 上一段活用 イ 下一段活用 ウ サ行変格活用 エ カ行変格活用

④ 次のAとBの文章を読んで後の問いにそれぞれ答えなさい。なお設問の都合上、表記を一部改めている。

A 川上弘美「運命の恋人」

① 恋人が桜の木のうろ（注1）に住みついてしまった。

アメリカシロヒトリ（注2）が刺すよと言うと、今の季節もう蛾がになってしまっているから大丈夫と言い返す。じめじめするから体に悪いと注意すると、（a）ガンケンなので平気だと否定する。会社に行くのに（b）シシヨウをきたすのではないかと心配すると、在宅勤務の多い仕事なのでなんとかなると答える。

庭の奥に立っている樹齢百年ほどの桜の木である。

深い庭で、うつそうと植物が茂っており、池もある。魚や木の実や青ものなど取りほうだいで、食べ物には困らないようだ。水は、焚たき火で雨水の汲み置きを（c）ジヨウリュウして得るらしい。

② 最初のころは不安にも思ったが、恋人が平然としているし会社を齧か首しゅ（注3）されることもなかったしで、すぐにわたしも慣れ、週に二回は木々をかきわけて桜の木のうろを訪ねるようになった。

くすのきの幹をつたって椎の木に移り、そこから地面におりて古い池をめぐるころには、中天に月がかかっている。

③ この時刻には恋人はたいがい水の中にいる。夜行性になったのがうろに住みはじめてから二カ月後、指の間にきれいな薄みずい水掻かきができたのが三カ月後だった。このころはえら穴もできて、一時間くらいは水の中にもぐりっぱなしでいられるらしい。

しばらく水辺で待っていていれば、やがてヒツク傘をしたたらせた恋人が音もなく水からあがり、素裸のまま抱きしめにやってくる。

会社にはあいかわらずきちんきちんと通っているが、酒だのゴルフだのつきあいが悪くなったせいか、(d) ドウリョウや上司に疎うとま
れがちだと、恋人はときおりこぼした。

そろそろ戻れば、と言うと、恋人は首を横に振って、④ もう戻れないねえ、と答える。よく見れば恋人は以前よりもずいぶん毛深くな
っているし、歯もとがり耳も立ちあがっている。

夜明けの少し前まで共に過ごしてから、持参したアイロンずみのワイシャツと恋人の好物の揚げ茄子なすを桜の木のうちろの中にしまい、ふく
ろうがほうほう鳴き木々が葉ずれの音をたてるなか、わたしは梢こずえをかきわけて帰路につく。

そうやって五年たち、十年たち、やがてわたしは恋人ではない男と結婚して、子供を三人生んだ。子供たちにも子供ができ、その子供に
も子供ができ、つぎつぎに子孫は増えていった。

子孫が千人を越えたころ、わたしは久しぶりに庭の奥に恋人を訪ねてみることを思いついた。

昔のようにくすのきの幹をつたってから椎の木に飛び移ろうとしたが、椎の木はすっかり成長してしまい、飛び移れるような下枝がなく
なっていた。

しかたなくわたしは、地面を歩いた。苔こけがいちめんめんに生え、空気はひんやりとしていた。

古い池をめぐって、恋人が住んでいる桜の木にたどり着いたのは、真夜中だった。

ひさしぶり、と、うろの中に呼びかけてみたが、答えがない。⑤ 用意してきた揚げ茄子とストライプの新品のワイシャツを、桜の幹の前
に供え、しばらく待った。

うとうとしてしまったのか、目を開けると空が白んでいた。ふと見ると恋人が目の前に立っている。立ったまま揚げ茄子をむしゃむしゃ食べている。

恋人は思ったほど変化していなかった。全身がすっかり毛におおわれ、背中に羽のようなものをたたんでいるのが、変化といえば変化か。顔つきなどは昔とそっくりそのままだった。

どうしていた、と聞くと、あいかわらずだよ、会社はちゃんと通ってるし、定期（e）ケンシンもきちんと受けてるけど悪いところはなし、給料はあんまり上がらないけど、まあまあかな、などと⑥澄まして答える。

ほんとにひさしぶり、なつかしいなあ、と言いながら、恋人の腰に手をまわしてみた。恋人はわたしの耳を撫でてくれた。水掻きが耳に当たってくすぐったかったが、昔どおりの撫でかただった。

やさしくやさしく、恋人は耳を撫でつづけた。夜明けに鳴く鳥が、空の高いところでこうこう鳴いている。

そのままじっとしていると、恋人は一回二回強くわたしを抱きしめ、次の瞬間身をひるがえして茂みの中に消えた。

梢が何回か揺れたかと思うと、すぐに恋人は姿をあらわした。大きな鳥を逆さにぶらさげている。

この先も出世しそうにないけどさ、まあ毎日の食事には困らないし、こうしてひさしぶりに会ってみればやっぱり君のこと好きだし、

⑦もう一度やりなおさないか。恋人は言った。

胸がどきどきした。

長年いろいろなことを経てきたが、⑧やはりこのひとが運命のひとだったのかもしれないと思いながら、わたしは恋人の顔をじっと見た。

昔よりもよほど精悍（せいかん）（注4）になって、羽なんかはえてるけれど、性格はいいし、生活力も案外ありそうだし。

喜んで。わたしは答えた。

やがて子供が三人生まれ、その子供に子供が生まれ、子孫は増えつづけ、桜の木のうろも手狭になったので、くすのきや椎の木のうろに子孫たちを住ませ、わたしたちは末永く幸せに暮らした。

B 川上弘美『はじめての文学 川上弘美』あとがきより抜粋

前に書いて、すでに記憶の薄れている文章を読み直すのは、アルバムをめくったり昔撮った家庭用八ミリ映像（今はビデオ、ですね）を久しぶりに見たりすることと、似ているような気がします。

その文章（あるいは写真あるいは八ミリ映像あるいはビデオ映像）を眺めながら、なにか不思議な気分になっても思ったとしても、そこにある主体に関しては、きつと誰もが、

「わたしが」

というふうではなく、

「このひとが、この作者が」

と、まるで人ごとのように、思うのではないでしょうか。

自分なのに、自分ではない。

⑨それが、過去の「自分」に向き合うときの、わたしたちの反応なのだと思います。

ここにある小説は、作者である「わたし」の手を離れて久しいものばかりです。【ア】

書き上がったその瞬間に、すでに小説は作者にとって、「自分から離れていってしまったもの」になっています。

作者から離れた小説は、読者の元へと、ゆっくり運ばれてゆきます。たとえば大きな客船に乗って、堂々と海の波を割りひらきながら読者の皆さんのところへと運ばれる本もあるでしょう。ひっそりと夜の道を走るしなやかな動物の背に乗って、選ばれた読者にだけ運ばれる本もあるにちがいない。

⑩わたしの本ならばさしずめ、小さな人がお椀わんの舟はしに箸かの櫂かいをあやつって必死に川を下り、表紙のはしっこをちよつと水で濡ぬらしたりしながらも、ようよう読者の元へと届けてくれている、そんな感じでしょうか。【イ】

どんなふうに運ばれた小説も、読者にとっては大切なものです。【ウ】

わたし自身、自分の作ったものはさきほど書いたようにどんどん忘れていってしまうけれど、大好きで読みついできたよその作者の小説についてならば、どの頁ページにどんな言葉があつて、登場人物の誰がどんな服をどんな場面で着ていて、どんな時に悲しんでどんな時に喜んだかということ、⑪つぶさに覚えているのです。

小説というものは、書かれることも大事だけれど、読んでもらうことも、きっとものすごく大事なのです。【エ】

読まれたその瞬間に、小説は読んだ人のものになる。書いた人がどんなに声をからして「そこはそう読むんじゃないですよ」と叫んでも、何の役にもたたない。読む人は、とにかく、どんなふうにも読んでもいいのです。作者の意向なんて、まったく考えなくていい。徹頭徹尾、自分勝手に読んでいい。黙って読むんだから、誰かに発表するんじゃないから、どんな邪悪なことを考えてもいい。反対に、どんな美しいことを考えてもいい。想像をたくましくして登場人物のその後を考えるのも自由。登場人物たちが実は書かれていないところで恋愛関係を結んでいたり憎みあっていたり、またはこっそりイタリア料理屋をひらく算段をしているなんて想像するのも、おおいに結構。

小説を読むということは、そういうことなのです。

ためになる、とか、視野が広がる、とか、そういうことも多少はありましようけれど、それよりもっと大きいのは、なんとというか⑫この「隠微な悦楽」の味なのです。

「この本、そんなに『隠微な悦楽』つぼくなかったよ」という方もいらっしゃると思います。このシリーズでは、たくさん色彩の違う作風の本がありますから、だいじょうぶです。違う色のものを、その時は手に取ってみてくださいね。

(注1) うろ…内部が空になっているところ。うつら。ほら。空洞。

(注2) アメリカシロヒトリ…ヒトリガ科の蛾

(注3) 鹹首…雇い主が使用人を辞めさせること。解雇。

(注4) 精悍…顔つきや態度に勇ましく鋭い気性が現れていること。

問一 傍線部①「恋人が桜の木のうちろに住みついでしまった。」に関する次の問いにそれぞれ答えなさい。

(一) 「恋人が桜の木のうちろに住みついでしまった。」という書き出しの効果として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 16。

ア 名前が明示されない「恋人」が、「木のうちろ」に「住みつく」という匿名性とくめいせいの高さを示すことで、これから事件の謎解きが始まるような雰囲気を作っている。

イ 人間だと想定できる「恋人」が「木のうちろ」に「住みつく」という一見理解しがたい不可思議な出来事から始まることで、読者の興味をひいている。

ウ 何の説明もない「恋人」という言葉から始まることで、恋愛に関する話だと暗に伝え、読者にドラマティックな展開を期待させている。

エ 性別のわからない「恋人」が場所のわからない「木のうろ」にいる場面を想像させることで、読者の中にリアリティーを生んでいく。

(E) 「住みついてしまった。」から読み取れる「わたし」の心情として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

ア 桜の木のうろに住むことを心配しつつ、心理的な距離を感じて納得できない気持ち。

イ かたくなに桜の木のうろに住む「恋人」を不安に思いつつ、食べ物が豊富な場所を先に取られてしまい悔しく思う気持ち。

ウ 様々な理由を挙げて反対するほど怒りつつ、桜の木のうろに住みついた「恋人」に対して失望する気持ち。

エ 桜の木のうろに住むことを驚きつつ、避けられない別れを受け入れる気持ち。

問二 傍線部②「最初のころは不安にも思った」とあるが、「不安」に思った内容として適切でないものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

ア 桜の木のうろに住んでいると時間の感覚がなくなり、会社に行けなくなる事。

イ 「恋人」が突然、普通ではないことを言ったり、したりしたこと。

ウ 特殊な場所に住みついたため、この先の二人の関係性が不透明に思えたこと。
エ うっそうと植物が茂っているため、幼虫に刺されること。

問三 傍線部③「この時刻」とはいつ頃だと考えられるか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

ア 朝方 イ 昼間 ウ 夕方 エ 深夜

問四 傍線部④「もう戻れないねえ」というのはなぜか、最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

ア 桜の木のうろでの生活は充実しており、また「わたし」と一緒に暮らすことはできないと考えたから。
イ 会社で疎まれがちであり、桜の木のうろの中に隠れて生活したいと考えているから。
ウ 桜の木のうろでの生活に順応しすぎてしまい、今まで通りの生活はできないと考えているから。
エ 水の中で生活することが増えたとし、見た目にも変化があるため、もう人前には出たくないと考えたから。

問五 傍線部⑤「用意してきた揚げ茄子とストライプの新品のワイシャツ」という表現からどのようなことが読み取れるか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア 「新品のワイシャツ」を持っていくことで、新たな気持ちで「恋人」に接しようとしていることが読み取れる。
- イ 好物だったものを持っていくことで、「恋人」の気持ちをつなぎ止めようとしていることが読み取れる。
- ウ 「恋人」が以前と変わらないことを願っているが、時間的な隔たりがあったことが読み取れる。
- エ 「恋人」の好きな食べ物や洋服を用意することで、再会する照れ臭さを隠そうとしていることが読み取れる。

問六 傍線部⑥「澄ま^すして答える。」とはどういうことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア 昔付き合っていた「わたし」に対し、会えた嬉しさとともに失恋の悲しさを思い出し、戸惑いながら答えたということ。
- イ 失礼な質問をしてくる「わたし」に対し、自分のこれまでの生活の良さを主張するように、冷たく答えたということ。
- ウ 久しぶりに会った「わたし」に対し、そのうれしさや懐かしさなどの感情を抑えるように平然と答えたということ。
- エ 普通の暮らしをしている「わたし」に対し、今の自分とは価値観が合わないと考え、機械的に答えたということ。

問七 傍線部⑦「もう一度やりなおさないか。」とあるが、どういうことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア もう一度家族に戻ろうということ。
- イ もう一度ふたりで木のうろに住もうということ。
- ウ もう一度人間社会に戻ろうということ。

エ もう一度恋人関係に戻ろうということ。

問八 傍線部⑧「やはりこの人が運命のひとだったのかもしれない」とあるが、ここでの「わたし」の気持ちとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

ア さまざまな出来事を経て再会した「恋人」は、こうして再び巡り合う定めだった相手なのではないかと納得している。

イ もう一度会いたいと思い、会いに来た「恋人」は、結婚した男よりもはるかに優れた相手なのではないかと喜んでいる。

ウ 自身の胸が高鳴るほどにずっと会いたかった「恋人」は、自分にとって一番好きだった相手なのではないかと満足している。

エ どんな姿になっても惹かれてしまう「恋人」は、自分を最優先し幸せにしてくれる相手なのではないかと期待している。

問九 傍線部⑨「それ」が指す内容はどのようなものか最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

ア 自分のことではなく他人のこととしてとらえ、実際にあったことではないと感じること。

イ アルバムをめくるときのように当時の様子やその時の感情を鮮明に思いだしながら懐かしく感じることに。

ウ 自分の手から離れて、自分のことを他人のことのように感じることに。

エ 自分に起きたことなのか、他人に起きたことなのか特定することが難しく感じることに。

問十 傍線部⑩「わたしの本ならばさしずめ、小さな人がお椀わんの舟ふねに箸はしの權けんをあやつって必死に川を下り、表紙のはしっこをちよつと水で濡ぬらしたりしながらも、ようよう読者の元へと届けてくれている、そんな感じでしょうか。」とはどういうことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア 自分が書く物語は一寸法師のように非現実的な内容のものが多いと自負しているということ。
- イ 自分が書く物語は多くの人を強い力で引っ張っていくものではないと考えているということ。
- ウ 自分が書く物語は完全なものではないが、多くの読者を感動させる力があると確信しているということ。
- エ 自分が書く物語は一般的に評価が高いものではないということをはのめかしているということ。

問十一 傍線部⑪「つぶさに」の本文中での意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア こまかくくわしいさま。
- イ うすぼんやりしているさま。
- ウ うまくとりつくろっているさま。
- エ 余裕が十分にあるさま。

問十二 傍線部⑫「この『隠微えんびな悦楽』の味」とはどのようなことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア 小説の主人公の気持ちに寄り添い、小説の世界に浸ること。
- イ 小説からさまざまなことを連想し、それらを結びつけて知識を深めること。
- ウ 小説を好きなように解釈して、自分の中だけで楽しむこと。
- エ 小説に書かれていることを、できるだけ筆者の意に沿う形で解釈すること。

問十三 AとBの文章を踏まえ、文章A「運命の恋人」の表現として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

- ア 作品の世界観に読者が入っていきけるように、冒頭から詳細な設定を展開し、背景描写に力を入れている。
- イ 読者が自由に想像できる余地を残すために、架空の固有名詞は控え、不思議な雰囲気を保つようにしている。
- ウ 登場人物の身に起きたことについて詳しく書くことで、読者の自由な想像力にまかせて読むことができるようになっている。
- エ 恋人同士のやりとりに主眼を置き、ふたりの関係性をきちんと描くために会話文を多用している。

問十四 次の文章を補充する箇所として本文中の【ア】【イ】【ウ】【エ】から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

解答番号は 。

もしかしたら、作者にとってよりも、読者にとっての方が、より大切なものかもしれない。

問十五 傍線部 (a) ～ (e) に相当する漢字を含むものを次の各群のア～エのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
(例を参考にすること)

例 カンゼンな形で残す。
ア シンゼンで結婚式を挙げる。
イ ゼンイの寄付。
ウ グウゼン休みの日に会った。
エ アンゼンな場所。
答え エ

(a) カンケン

解答番号は

31

- ア 水分を多くガンユウする。
イ 減刑をタンガンする。
ウ 起床してセンガンする。
エ 彼はガンメイな性格だ。

(b) シショウ

解答番号は

32

ア クラスでガッショウする。

イ 諸外国とコウショウする。

ウ 努力のケツショウ。

エ 目標達成のショウガイになる。

(c) ジョウリュウ

解答番号は

33

ア ジョウキ機関車。

イ カジョウな期待。

ウ 栽培に適したドジョウだ。

エ ジョウホウを共有する。

(d) ドウリョウ

解答番号は

34

ア シュリョウが解禁される。

イ 将来の夢はカンリョウになることだ。

ウ タイリョウに生産され廃棄される。

エ 他国のリョウチとなる。

(e) ケンシン

解答番号は

35

ア 敵国へのシンコウを開始する。

イ シンシ的な振る舞い。

ウ 医者 of シンサツを受ける。

エ シンチョウに歩く。

以上